

つくる健康



京都医療生協

第177号 2015年(平成27年)10月15日
発行所/京都医療生活協同組合
京都市中京区聚楽廻東町2番地
視力センタービル地階
☎075(822)2286 FAX075(822)6133
発行責任者/山田 亮三

10月～11月

京都医療生協 強化月間始まる

中野眼科を協同組合の「医療生協強化月間」が始まっています。期間は十月～十一月。念じて取り組まれていることを開催して患者さんや



京都医療生協理事長 山田 亮三

豊かな長寿社会にむけて

協同を基調に さらに信頼される中野眼科を

この秋も豪雨禍となりました。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

世界一の長寿を豊かに

日本人の平均寿命は八十歳を上りましたが、自立した生活が可能とされる健康寿命も七十歳を超えました。終生にわたる視覚保持の向上が現代眼科の課題です。中野眼科は、高齢者はもちろん

さらに充実した診療を

本院では、緑内障診療・白内障手術・硝子体内注射・神経眼科等の専門診療と共に、一般眼科診療も着実に進んでいます。五診療所は、患者さん第一の立場で、それぞれの長を生かし、連携を進めます。身

近な診療所で気軽に受診してください。コンタクトレンズ診療については、安全・安心・誠実を旨とする取り組みで、患者さんの圧倒的な信頼に心強く思います。患者のみなさんの利便性を最優先しつつも、職員の確保や負担等も考慮し、休診日導入となりました。ご理解と協力をお願いいたします。

健康大学で最新情報

「認知症」と「眼科疾患」

健康大学が二回開かれます。健康大学では、健康に役立つ最新の情報が第一線の専門家から聞けるほか、講義の後、何でも気軽に尋ねることができ、質疑応答の時間があります。参加費無料。

健康大学が二回開かれます。時間は午後二時～三時三十分。申込みは、中野眼科受付か京都医療生協まで。

経営改革への取り組み

「入るを量りて出づるを制する」に従って財政基盤の強化を進めます。出費全般にわたる節約は当然ですが、職員が十分に能力を発揮できる人事体制を目指します。また役員世代交代も課題になっています。

組合への参加を

中野眼科の設立法人、京都医療生協は、創立六十五周年を迎え、組合員も二万五千人を超えて大き

市民のみなさんの参加を呼びかけています。また、医療生協の趣旨に賛同して、京都医療生協へ加入していただくようお願いしています。(関連記事二面)

無料眼科健診を実施 手遅れにならない為に



検査を受ける無料眼科健診受診者

京都医療生協、中野眼科の「無料眼科健診」が実施されます。失明原因第一位の病気の眼科専門医による健診がお勧めです。昨年、健診結果で、緑内障も白内障も眼底の病気があり、四十歳を過ぎれば、年に一回の眼科専門医による健診者の二割でした。無料眼科健診では、視力、眼圧、血圧等を検査し、藤田裕美医師が前眼部や眼底などを診察し、目の病気の有無などを伝えます。

日時 十月三十日(金) 午後二時から
場所 中野眼科本院(千本丸太町西南角)
申込み 中野眼科受付、または京都医療生協まで。
〇八二二・二二八六

一斉休診のお知らせ

今年の年末年始は、中野眼科のすべての診療所から来年一月四日(月)までの六日間、一斉休診となります。また、来年五月の連休(祝日)は、三日(火)から五日(木)までの三日間、すべての中野眼科診療所で一斉休診とさせていただきます。

最近の医療情報

白内障手術、網膜硝子体手術など眼科医療はすごい勢いで進歩し、この二十年間で治療成績は格段に向上した。ただし、どうにも治すことができない病気もある。加齢黄斑変性など網膜の病気である。網膜は脳と同じ中枢神経なので、一度障害されると元に戻らない。と



iPS細胞を用いた網膜細胞治療

中野眼科医院副院長 中村 元

再生医療ではES細胞(胚性幹細胞)やiPS細胞(人工多能性幹細胞)が用いられる。ES細胞は受精卵から作成される。ところが、網膜細胞や網膜色素上皮細胞を作成し移植する再生医療が非常に成果をあげている。昨年九月、神戸市の先端医療センター病院で、iPS細胞から作った網膜細胞を加齢黄斑変性の患者に移植する手術が行われ、現在経過観察中



駅前診療所がリニューアルオープンした。改装の設計のコンセプトは「おもてなし」だ。新たにできた三階フロアでは、丁寧に時間をかけてコンタクトレンズの相談を受けてもらえるようになり、待合スペースも増え、四階もゆったりと明るい診療所に生まれ変わった。また、随所にプライバシーに配慮した設計となっている。より快適に受診してもらえよう、今後も積極的に改善を行っていききたい。診療所のイメージカラーは、はんわりとしたやさしいピンク色になり、明るくなったと好評頂いている。京都の玄関口に位置し、以前から他府県の患者さんも多かったが、最近外国人の受診も多くなり、いつでも、どなたでも安心して受診していただける診療所を目指したいと思う。すべての患者さんが、ゆったりとした時を過ごし、これまで通りの、最新の医療機器を用いた診察を終えた後は、安心して笑顔で帰っていただけるよう決意を新たにしている。何か目に気になることがある方は、是非一度、優雅に生まれ変わった診療所に足をお運びください。(高木史子・駅前診療所院長、理事)

和歌山で日本高齢者大会

安齋さんの話に拍手と笑い

「まちから村からの連帯で、ひとりぼっちの高齢者をなくそう」を合言葉に、第二十九回日本高齢者大会が九月十五日（火）～十六日（水）の二日間、和歌山市内で開かれ、全国から延べ五〇〇人が参加しました。



「来年は東京で再開しましょう」とアピールする東京の代表ら

全体会では、「あの悲惨な戦争を体験した私たち高齢者は、戦後七十年、憲法をいかに、格差のない公正な社会のために行動します」との決議が採択されました。

高齢者大会に参加して

西京区
清水 朝子さん



後期高齢者の仲間入りも間近になり、心身共に少々自信を無くしかけていました。

この度、日本高齢者大会にお誘い頂き、大勢の高齢者が元気にそれぞれの主義主張を持って活躍されているのを間近に見聞きました。日常の些事に取りまぎれなんとなく歳を重ねていることを省みるこの様な機会を与えていただきました。

有難うございました。日頃交流のない人達とも同宿しそれぞれの生き方を語り合い、同行の中野圭子さんと私の白髪を周りの女性たちに羨ましがられる面白い体験もしました。見渡せば皆さん綺麗に染め上げられ若々しかったのです。

和歌山大学、和歌山県民文化会館は初めてでしたが、久しぶりの和歌山へのバス旅行も楽しみました。まだまだ老後はこれからだと思ひ知りました。元気で健やかな高齢者を目指して精進してまいります。お世話になりました。有難うございました。

下京区

中野 圭子さん



一日目午後一時からの学習講座・分科会は、三十以上あるプログラムの中から、前半は「国民本位の震災対策」、後半は「自然エネルギーの普及と地域活性化」を聴講しました。数日前の関東地方の大洪水の映像を息をのんで見ていて、京都はホントに大丈夫かな？あの凄まじい水のエネルギーを工夫して利用すれば、原発はいらないのにと思っていた矢先だったので、このテーマを選びました。

翌日は県民文化会館で十時から主催者挨拶やレモニーの後、期待の安齋先生先生の記念講演がありました。内容は、「平和」は「暴力」の対峙語であるという最近の「平和学」の説明。つづいて日本の近現代史の年代や人名を思いまぜ戦争の勃発から敗戦について。その間のダイナミズムの発明からノーベル賞が出来るまでの紆余曲折。かと思えば最近の流行語「倍返し」「今でしょ」で盛り上げられて「おもてなし」には「ウラがある」と安保法

個人情報漏洩に懸念

マイナンバー通知始まる

十月五日から、日本に住むすべての人に十二ヶ月から始まり、マイナンバー（個人番号）が郵送で通知されています。

希望者には、身分証明書の不正利用や漏洩を懸念する声があります。

戦後七十年戦争展 中野先生従軍記 インパール作戦スケッチ



中野信夫先生の「インパール作戦スケッチ画」の展示

「第三十五回平和のたのめ」の京都の戦争展が八月四日から九日まで、北区の立命館大学国際平和ミュージアム・中野記念ホールで開催され、三千五百人が参観しました。戦後七十年を迎えて戦争体験者が少なくなっているなか、今年「インパール作戦スケッチ画」が展示されていました。

「インパール作戦スケッチ画」は、戦線に重傷を負った中野野眼科創立者である中野信夫先生が描いた「インパール作戦スケッチ画」が展示されていました。

保険で良い医療を

白内障手術で多くの高齢者が視力を回復していますが、白内障手術の眼内レンズに健康保険が適用されたのは一九九二年のことです。

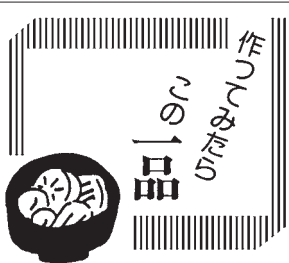


今年には戦後七十年、その戦後はいつから始まったのか、ということに本書の著者で思想家の佐伯啓思氏（京都大名堂教授）は注目する。一九四五年八月十五日、さらに戦艦ミズホリ号上で降伏調印が行われた同年九月二日は日本の敗戦が決定した敗戦の日であって、日本の「戦後」はサンフランシスコ講和条約が調印され、日本主権が回復した一九五二年四月二十八日

『従属国家論 日米戦後史の欺瞞』

「日本は誤った侵略戦争をしたから、敗戦」という道義的敗戦に変わっていく。これがアメリカの占領政策の目的だったのだ。そうして、占領下という主権のない状態で現憲法の公布が行なわれ

10月の献立



蓮根はさみ焼き (2人分)
材料) 蓮根 70〜80g、鶏むね肉(皮を除く) 150g程度、青じそ(大) 10枚程、さつま芋(5ミリ厚さの輪切りを4枚)、ピーマン 2個(4つ割にし種を除く)、薄力粉、植物油、梅干を種を除いてペースト状にする(梅肉)。(作り方)

蓮根は洗って、皮つきのまま5ミリ厚さの輪切りにし、粉をまぶしてお。むね肉を厚み半分に切り分け、ラップにはさんで、麺棒で軽くたたいて平たくする。蓮根の切り口の大きさに切り分ける。両面に梅肉をうすく塗り、溶き衣をつけた青じそでおおい、①の蓮根を全体につける。熱したフライパンに流れる程度の油を入れ、中火弱にし①を入れ、ホイールをフタにして焼く。両面に焼き色がついたら(10分程)取り出す。さつま芋、ピーマンも溶き衣をつけて両面を焼く。②を食べよい大きさに切り、3種盛合せ、天つゆを添える。(あざみ班・田寺慈子)